園長先生の子育てひろば

令和３年１１月

もっぴっぴーのぴ♪

園長　山中　文

いいお天気がつづきますね。外での活動も楽しい時期です。

先日、年長の園児たちと一緒に併設の中学校のグラウンドをお借りして、運動会の練習に出かけました。その時、園への帰り道でちょっとおもしろいことがありました。

運動会の練習を終えてほどよくつかれ、みな、気だるい感じで歩いていました。その途中で、一人の女の子が“もっぴっぴーのぴ♪”と歌いはじめました。ちょうど移動販売車の“わーらびーもち♪”の旋律です。おもわず“もっぴっぴーのぴ♪”と応答したところ、そこここでみんな真似するようになりました。

すると、ちょうどその旋律に気づいたのか、一人の男の子が、“わーらびーもち♪”と一声。続けて“つめたーくて♪”。さらに“おーいしーいよ♪”。そこら中で応答しながら帰ることになりました。途中で“もっぴっぴーのぴ♪”の合いの手も入ります。こんな感じです。

“わーらびーもち”（“もっぴっぴーのぴ”）“わーらびーもち”　“つめたーくて”（“もっぴっぴーのぴ”）“つめたーくて”

“おーいしーいよ”（“もっぴっぴーのぴ”）“おーいしーいよ”

すごいすごい、自分たちで応答と合いの手を入れて遊んでる！と、愉快になりながら、園に帰ってきたことでした。

暑い日だったし、ちょうど給食前でお腹もすいていたことでしょう。「お腹がすいた」とか「暑いよ」ではなくて、“つめたくて”“おいしいよ”と、気持ちを歌に変えるなんて、とてもイキではありませんか。

でも面白かったのはそれだけではありません。何度か歌い終わったところで、園内のクラスに上がる階段になりました。私は玄関から職員室に行くのでおわかれです。すると、“おーいしーいよ”“おーいしーいよ”　のあとに、“またあーそぼ♪”と入れてくれたのでした。おもわず、“うまい！”と唸り、嬉しくて「ぽっ」となったことでした。この子は将来モテるかもしれません！？

幼児期は数値化しにくい非認知能力が育つ重要な時期であるということは、この頃よく言われていることです。この“もっぴっぴーのぴ♪”から始まる一連の歌遊びは、何気ないひとときの中で、関連させてみつける力、表現を楽しむ力、友だちと協力する力、自分なりに工夫しようとする力等々、まさに非認知能力が鍛えられている瞬間です。

子どもかちが遊んでいるように見える姿から、そんなすごさをみとっていただけると嬉しいです。